

経営資料

No.164 会社訪問

代表取締役社長 鬼塚 睦子 氏



株式会社 鬼塚硝子

会社プロフィール  
 代表者: 代表取締役社長 鬼塚 睦子  
 本社: 〒198-0023 東京都青梅市今井 3-9-18  
 TEL: 0428-31-4305 (代表) FAX: 0428-31-3392  
 創業: 1967年1月  
 設立: 1971年5月  
 資本金: 3,000万円  
 従業員: 53名  
 事業内容: ガラスセル(キュベット)をはじめ、  
 医療用・理化学用ガラス部品、工業用ガラス製品など、  
 ガラス製品の開発、製造、販売  
 URL: <http://www.onizca.co.jp>

聞き手: 梅垣善通(広報委員長)、岡田康弘(事務局長)、取材・撮影・編集: クリエイティブ・レイ(株)

ONZCA 国内でわずかししか出来ないガラス加工技術を駆使  
 医療・理化学・工業分野を支えるガラス製品を製造加工

御社の主な事業内容をお聞かせください。

弊社はガラスの精密加工技術を基盤として、医療用・理化学用ガラス部品、工業用ガラス製品、さらにはX線管などの開発、製造、販売を行っています。

弊社で最も多く製造しているガラス製品は、血液分析用ガラスセル(キュベット)で、大小様々な種類があります。例えば、底面が1cm四方、高さが5cm程度で上面が空いている直方体の形状で血液分析装置などに使われます。ガラスセルの製造では、国内トップシェアを占めています。

工業用の製品では、例えば、粉体の測定に使用するための微細なガラス容器、レーザー発振管のガラス部分など、お客様の要望に応じて多種多様です。



本社外観▶

御社の強みについてお聞かせいただけますか。

弊社の職人が持つ熟練の技術と経験、知識です。

例えば「段シール加工(段継管)」という技術を行える職人は国内で10数人程と聞いていますが、弊社にはそのうち3人もいて、技術力の強みになっています。

段シール加工は中間ガラスを使い、膨張係数の異なるガラスを順々に繋いでいくものです。一例として半導体製造装置に試用する端子(ターミナル)を製作しています。この端子の場合、金属ロッドから石英ガラスを段シールによりつなぎ合わせたものですが、納入先の装置メーカーにおいて装置本体へ打撃されます。不純物を嫌う環境下で使用されるため厳しい要求事項もありますが、この端子の場合、5種類のガラスを繋ぎ合わせたものになっております。

また、金属とガラスを接合する加工も高い技術が求められますが、そうしたガラスと異種の材料との接合も、弊社は得意としています。元々金属とガラスは接着できるものではありません。接着しようとしても割れてしまいますので、ガラスの中でも、膨張係数がより金属に近いガラスを何種類も徐々に繋いで、膨張係数を馴染ませて繋げていきます。

弊社はそうした製品を含め、真空を使ったガラスの成型技術も得意としています。

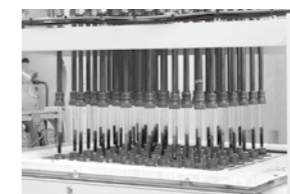
鬼塚硝子ホームページで「段シール加工(段継管)」「異種材料接合」を紹介  
[http://www.onizca.co.jp/tech2/jp/tech\\_gas/tech\\_gas.html](http://www.onizca.co.jp/tech2/jp/tech_gas/tech_gas.html)



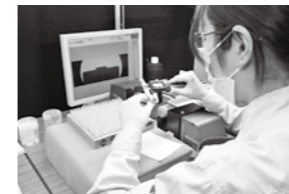
経営資料



自動素管製造機



自社製の真空成形機



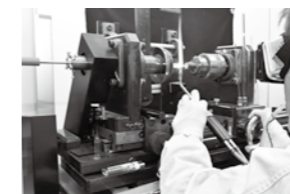
製品の寸法検査



ガス加工技術講習の様子



成形作業の様子



ベテランのガス加工

創業から現在に至る経緯をお聞かせいただけますか。

創業者である私の父が職人からこの会社を興し、長女の私が2017年に社長になりました。一昨年2021年5月に設立50周年を迎え、今年で会社設立から52年目となります。従業員はパートを含めて53人で、平均年齢は42歳前後と比較的若い人材が増えました。

創業者の鬼塚好弘は長崎出身で、中学生の頃に家族で上京し、昼間は仕事をして夜は定時制の高校に通っていたそうです。独立してガラス加工業を始めたのは1967年、25歳の時です。野望のようなものがあつたというより、勤めていた会社の事情と合わせ、やむにやまらず独立したような状況だったと聞いています。1人でのスタートで、家のひと部屋を使い、注文があるままにガラス加工をしていたそうです。この頃や会社の黎明期は、私は生まれていないので、分からない事が多く、ご容赦ください。

その後、次第に注文も従業員も増えていき、従業員が10~20人未満の時期が長かったようです。その間の一時期は、テレビのブラウン管も製造していたと聞いています。

現在、主力となっている医療用ガラスセル(キュベット)を作り始めたのは25年ほど前なのですが、実は当初は大赤字の部門でした。先代も周囲からやめてしまえば…、という事も言われたようです。それが主力製品に成長した理由の1つには、ガラスセルの製造を他社がやりたがらなかった、また、出来なかったということがあります。つまり、弊社の技

術をなかなか真似することが出来なかったわけです。

こうして弊社は、製造を一部機械化する事で採算性を上げていき、ここまで成長させることが出来ました。

先代は、採算は後回して良い物を作る職人であったように感じますが、いかがですか。

そうです。良い物を作ることに喜びを感じていました。「俺は、金儲け出来ない」と、よく口にしていましたね。(笑)

社長業を継いだきっかけはどんなことだったのでしょうか。

先代が70代後半の頃より、周囲から後継ぎを決めるように求められていたようです。実際には、突然「社長に登記したのでよろしく」と言われた感じでした。ですが抵抗はありませんでした。私なりに先代に万が一の事があつた場合、社員の皆さんの将来はどうなるだろうかと心配していたからです。社員の皆さんがいなければ今の会社はありませんので、困るようなことは避けなければいけません。いずれにせよ、そのような形で受け継ぎ、現在に至っています。

経営者として印象に残っている出来事や困難に感じた出来事があればお聞かせください。

私は経営者になってまだ短いので、困難はこれからだろうなと感じています。

その中でも嬉しく感じるのは、特に若い年代の社員が、

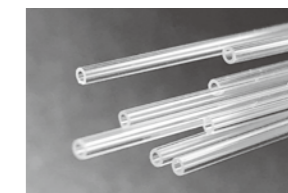
製品紹介



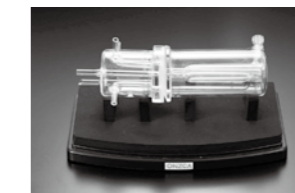
カラム



セル



キャピラリー



マグヌス管



各種電子管

## 経営資料

自信を感じていく姿を目にした時です。ひとつの課題やプロジェクトに関わる前はさほど積極的な感じではなかったのに、見事にやり遂げた後、非常に頼もしい感じに変わっていきます。そのような姿を見るのはとても嬉しく感じます。

**御社の強みである技術の継承は、いかがでしょうか。**

とても大変です。社内の年齢構造を見ると、実は30代が極端に少なくなっていて、これは当時の景気や会社の事情で、あまり採用が出来なかったからだと思います。技術を持つ職人は40～50代が多く、教えを受ける若手との年齢が開いているので、時代的な気質が違い、ちょっとした会話でも共通の話題が見つかりにくいなどの戸惑いがあるようです。

弊社の若い世代の社員はとても真面目ですし、能力も高いのです。また、教える方の先輩世代もとても親切です。真面目がゆえに若い人が先輩に話を聞きたい時に「仕事の手を止めたら申し訳ない」等の思いが働いて聞くことを遠慮してしまう事が多いようです。先輩の方は「聞いてくれていい」というスタンスなので、両者に少しすれ違いがあるように私は感じています。

**技術を文や図でマニュアル化するのは難しいのでしょうか。**

今のところは、なかなか難しいかなと苦心しています。先輩世代は、上の者を見て、覚えて、技術を身に着けてきた世代ですので、マニュアルを作るのは難しいです。ただし、聞いてくれれば何でも教えるという気持ちが強いです。

もちろん基本的な手順を動画に記録して、新人も分かりやすく理解出来るようにしています。難しいのは、いわゆる職人の技術と言われる「コツ」です。

ガラス製造では息を吹いて入れますが、その加減は、その日の温度、火の強さ、空気感、湿度などで変わるのです。そのコツは、経験が必要になり、簡単にマニュアルを作れるようなものではないですし、動画でもつかみ難いものです。将来的にマニュアル化出来ないことはないのですが、今は困難かなというのが率直なところです。

**御社の経営方針、経営理念をお聞かせください。**

経営理念は「1mmの階段を日々登るように努力し、新たな可能性を仲間と協創する」です。創業者が掲げた理念に、私の思いも加えたものです。

まず「とにかく毎日1mmでいいから前に進もう」ということで、たとえ階段を下がるがあっても、下がったことをまた前に進むための経験としてとらえ、努力を続けていこうという意味がこめられています。努力なしでは、技術者としても、またそうでないどんな仕事をしていても成長しないということです。

もう1つ「新たな可能性を仲間と協創する」という言葉には、私の思いが入っています。争う競争でなく、共に創りだしていく共創の心で、製品や仕事を良くしていこうということです。協調性や仲間を大事にするのは、日本のすごく良いところだと思っているので、それを会社の中でも実現しようという思いがあります。

**御社の課題や事業目標をお聞かせください。**

課題は正直、山ほどあります。1つは先にも述べた技術の承継です。若手人材の採用は、私が社長になってからは積極的にを行っています。新入社員の顔を見る4月は無事に入って来てくれた、という思いで嬉しく感じます。そして、仕事を覚えやすいように新人研修はしっかり行っています。また、ガラス製造加工だけで、今後生き残れるだろうかということもあります。そういう先行きの事に関係することですが、最終製品として販売している自社製品がないので、どうしてもメーカーからの受注によって売上げが左右されます。製品が何かの機械に組み込まれる部品などですので、その状況に引きずられてしまいます。それは発注量もそうですし、弊社製品の値上げを相談する難しさにも関係してきます。従業員の収入も上げたいというのは強く思うことなので、悩ましい課題です。

そうした様々な理由から、今後、自社製品の打ち出しを考える必要があると思っています。

**女性経営者だからこそ、感じるといったことはございますか。**

私のように製造業で2代目の女性社長という例は、少ないと思います。そういうことで、社外の皆さん、例えば商工会議所だったり、他の団体の方などに注目されたり、何かしら声をかけていただいたりすることは多いと思います。

社内的には、会社に入った時から技術者の方に色々と教えてもらってきたわけですが、男女ということは大きくは関係なく、コミュニケーション出来たのかなと思います。

私自身が先代と違うかなと思うのは、直接仕事を行う場

## 経営資料

ではないところなどで、「社員の皆さんが働きやすいよう少しずつ整えたいな」と感じる事が多い事かもしれません。先代はいい物を作ることに徹した職人でしたが、私にはその技術がない分、社員さんに気持ちよく働いて欲しいという想いが強いです。

例えば、近年のコロナ禍で飲み会ができないから、「労いが何もないのはやりきれないだろうな」と思ってカタログギフトを渡したり、社員食堂をちょっと広くしてきれいにしたり、休憩スペースや女性トイレをきれいにしたり、机を全部きれいなものに替えたりと、そういった細かいことです。

**鬼塚社長の個人的なことも伺わせてください。**

**座右の銘や愛読書、敬愛する人物をお聞かせください。**

感銘を受けた本は『置かれた場所で咲きなさい』という渡辺和子さんの本です。渡辺氏はノートルダム清心学園の理事長をつとめられた修道者です。自分が生まれ落ちた、今いる場所を大事にして、そこで出来る限りのことをやって自分をしっかり咲かせましようというメッセージがづづられていて、非常に心に残りました。

私は14～5年前にクリスチャンになり、それがきっかけでより素晴らしさを知ったマザー・テレサです。凄いという人はたくさんいらっしゃいますが、本当にマザー・テレサの生き方は、真似が出来ない凄さだと思い、尊敬するばかりです。先に名を挙げた渡辺和子氏もそうですが、自分の弱いところを認めつつも、人に尽くしていく姿に敬意を抱きます。

**プライベートなこともお聞かせいただけますか。**

プライベートでは、子どもにお弁当を作ってから出社し、また帰ってから家事をしてといった、そんな毎日です。

私は3人姉妹の長女で、学生を終えた後は他の企業に就職、その後、転職を経験しました。社会人になって間もなく経った頃から父親の会社の事は気になっていました。

母は弊社の経理をやっていたのですが、会社を存続する事と跡継ぎの事とで悩む中で、私が後を継ぐことはないと思っていたようです。しかし、私としては、会社をどうにかしなきゃいけないと思っていましたし、親族でない人が継ぐのもちょっと違うように思っていました。

子どもの頃は、自分が後を継ぐなんて意識は全くなかったのですが、工場に行ってガラスを加工する様子を見ては「すごいな」と感じていました。家の隣が工場だったので、

放課後に遊びに行っていたのです。今にして思うと、工場で働く皆さんのおかげで、私は大人に成長できたわけで、いずれ恩返しをしたいと思っていました。

**社長に就任した頃は、お子様もいらっしゃるの、家事と仕事の両立は大変だったかと思いますが、いかがでしたか。**

なかなか大変でした。当然、外の会合は行けませんので、外部の団体の仕事はすべて断りました。どうしても夜の飲酒を伴う会合や、朝早いゴルフなどのお誘いがあったり、家事とのバランスがとれないので受けない事に決め、家事・育児・会社の3つをまず頑張ろうと絞ったわけです。その後、少しずつ預けることができ、外出できるようになりました。今は子どもが成長し、時間に余裕が出来たので、少しずつ外部の団体とのお付き合いもできるようになっています。

**男性の経営者とは違った苦労があったわけですね。**

男性の方でもやっている人はいらっしゃいますでしょうけれども、お酒の席から帰って来て、掃除、洗濯、ご飯、ゴミ出し等々は待ってくれません。朝ゴルフに行くにしても、家族の朝食・昼食を作って出て行くので、いつも時間に追われている感じです。2年前に、父(会長)が体を崩して入院、コロナ禍でもありましたので、色々大変でした。

でも色々ありますけど、私はとても恵まれているように思います。仕事があって、家庭が安泰で、友達もいて、幸せに感じています。母の時代は、今のような便利な家電も少ないですし、そういう中で会社の資金繰りなどにも奔走していました。私には真似出来ません。表に出るのは父ですが、その父を支えた母も本当に凄いと感じています。

**余暇に楽しんでいることはありますか。**

休みができたなら、友達と会ってランチに出かけたりします。また、今はパン作りにはまっています、パン教室や自宅でも作って楽しんでいます。

**協会へのご意見やご要望などがあればお願いします。**

正直言って、まだわかっていない部分がたくさんありますが、せっかくこのような機会をいただいたので、ぜひ他の会員様と横の繋がりを大事にしたいと思います。どうぞご支援いただければ幸いです。